

下川町地域おこし協力隊員の森さんが東北森林管理局に採用！！

下川町で地域おこし協力隊員として活躍していた森俊輔さんが、林野庁採用試験に見事合格し、4月より東北森林管理局で勤務することになりました。森さんは、神奈川県出身で令和5年から、下川町産業振興課の鳥獣対策支援員として活動し、野生動物対策やクマの生態や対処法を伝える「クマトーク」の開催、キッズスクールでの教育活動にも熱心に取り組んでこられました。森さんは当署の若手職員も参加している「上川北部林業若者交流会」にも参加しており、当署とはこれまでも深い繋がりがあり、このほど当署に訪れた森さんを、当署若手職員が直撃インタビューしました！

大学では野生動物専攻 移住者の多い下川町へ移住

職員：まず、下川町の地域おこし協力隊員になったきっかけを教えてください。

森：大学時代に野生動物について学び、狩猟に興味を持ちました。各方面で「鳥獣対策職員」の仕事を探していたところ、下川町での募集を見つけ、狩猟免許が無くても応募可能でしたし、移住者が多く移住者に優しい町ということも決め手の一つです。

森林官に憧れて、林野庁に入ろう！！と決意

職員：下川町で様々な活動をする中で、どうして林野庁に入ろうと思ったのですか？

森：下川町で実施している林業若者交流会などを通じて、土別森林事務所首席森林官の小川さんと知り合い、狩猟に同行させてもらう機会があり、そこで仕事と狩猟の両立ができると感じました。また、狩猟をする中で、もっと野生動物の生息環境を学びたいと思い、林野庁に決めました。

転勤が多いことを逆手に、いろんな地域で仕事をできるのが林野庁の魅力

職員：林野庁や森林管理局採用だと全国様々な地域への転勤があり、近年ではそれがネックと言われる一面がありますが、森さんは転勤があっても苦ではないのですか？場合によっては北海道から遠く離れた場所や全く知らない土地での勤務もありますが…

森：国の機関であれば全国転勤があり、逆に言うと全国様々な地域の国有林(森林)で仕事ができ、それぞれの地域において野生動物や森林管理の仕事ができるということなので、それが林野庁の魅力の一つだと思ったので、最終的に林野庁に入ろうと決めました。

林業の専門知識を持った職員が多く、現場でよく働くイメージ

職員：これから林野庁で働くことになりますが、現段階の林野庁や国有林のイメージを教えてください。

森：国の機関のほとんどは、事務仕事ばかりのイメージですが、林野庁や国有林は林業に関する豊富な知識を持った職員が多く、それらを生かして現場の第一線でよく働いているイメージです。私も現場で働いてきたので、とてもシンパシーを感じました。そのイメージが強く、私も同じように現場で働きたいと強く思いました。



立派な森林官
になってね！

職員の狩猟者増加と、森林管理・野生鳥獣管理の両立を現場で実践していきたい！

職員：最後に国有林の現場で望むものや林野庁で実践していきたいことを教えてください。

森：個人的には狩猟をしたいので、林野庁の職員で狩猟する者が一人でも増えて、狩猟者間のコミュニティがあればいいと思います。また、海外では国の職員が森林管理を行いながら、野生鳥獣捕獲といった鳥獣管理の両立を行っているのので、自らそれを林野庁の現場で実践していきたいです。

取材を終えて・・・(職員の一言)

齋藤：林野庁希望理由が、林業若者交流会や当署森林官によるものだったことについて大変嬉しく思いました。下川で学んだことやつながりを大事にして、森林管理と鳥獣管理という新しい場での活躍を期待します。

小坂：若者交流会では同じ班となり、面識はありましたが、まさか林野庁を受けるとは思ってもいませんでした。今後、どこかで一緒に働ける日が楽しみです。

大場：現場を大事にし、狩猟免許を持っている数少ない職員になるので、今後の活躍が楽しみなのと、どこかで一緒に働けたらなと思います。



取材に答える協力隊員の森さん



取材する職員

北海道森林管理局 Instagram も開設！



@HOKKAIDO_NATIONAL_FOREST



写真コンテスト開催
中。みんな「いいね！」してね！

<上川北部森林管理署>

北海道上川郡下川町緑町21番地4

☎ 01655-4-2551

<北海道森林管理局 HP>

北の森漫画も公開中！

